昭和18年6月1日（火）

晴れ。午前10時より、共済組合規程改正条項の講義を中津局に於いて開催。ミワさんに出席して貰ふ。余は午後より参加す。下毛南北、両部会出席。午後5時過ぎまでかかる。午前中、中津局より電話あり。葉書一万あり切手類と共に持来る。。報告物多少遅れ気味。坊や母堂相手に淋しく過ごし気の毒なりし。

昭和18年6月2日（水）

曇天。午後より幾分持直せし如くも、遂に霽れず。豌豆飯、夕食に供せらる。報告物、此の日発送。

昭和18年6月3日（木）

印紙と葉書類請求。此日蒸暑し。ズボン国防色のを着用。夜水浴。坊や2時頃より泣き出し、容易に止まず。乳首所在不明の為、薬屋より15銭にて求め来らる。これにて睡りかけしも亦、須臾（しゅゆ）にして泣く。熱37, 5。ミワさん定額貯金に中殿に行かれ一時間余販らず。4時頃販られ、直ぐに清松医院に診て貰はる。ひまし油浣腸等の外、注射股にさる。夕食うどん頂く。此日、朝3時頃より降雨、黎明と共に次第に雨歇む。蚊出づ。蚊やり香焼く。

昭和18年6月4日（金）

朝3時頃より降雨。街路掃除せず。坊や10時近くまで寝て居る。元気も格別変わらず。巖朝10時頃来たり。朝吹氏罷めて他に就職せし如し。多忙、寧ろやり切れぬとこぼす。余はそんな悲鳴は不可。不可能を可能ならしむることが戦時態勢なりと誨（おし）ふ。朝吹氏は7年間勤続

の功績大なる人なり。此日は冷氣寒い位なり。雨歇みては降り、夜に迫る。

昭和18年6月5日（土）

珍しく朝、街路洒掃。故山本元帥の葬儀、国葬とて東条首相の礼拝時、午前10時50分を期し、全国民一斉に遙拝を行ふ。我等も逡信局より通牒あり、東面して遙拝す。巖の新妻、智子を連れ、途中より下駄の緒を切らし新しきを求め、夫れを見せに立寄る。降雨細く梅雨らしき降り方。午後より降り出したらし。八重子、秀樹を小母車に乗せ智子を連れ来る。何か駄賃をと思ひ、堅麩麩の油揚げを少し許りあるを遣る。

昭和18年6月6日（日）

午前3時頃より降雨。黎明歇むも掃除不能。ミワさん8時20分発バスにて、四日市に貯金奨励に付き、貯金課より出張員見え、打合せありて出席さる。場所、奈良屋と云ふ（7日9時半集合）。午後八重子母堂、姉、同氏長女（尋三）、巖夫婦も見ゆ。秀樹初めて抱へて見る。肥満し居ること坊やの比に非ず。土産に粽（ちまき）、筍、少々頂く。夕食時粽頂く。巖転職を云為す。余其の不可を切言す。兎角人間は焦り気味で焦躁、自ら墓穴を掘るの愚を、神様から見れば憐れとも思召すらんと誥（つ）ぐ。

昭和18年6月7日（月）

降雨の様、毎日揆を一にしあり。ミワさん四日市に赴かる。午後2時頃飯らる。北部局長会長に荻武氏任命。其の他居据わり。降雨の為、外出不能。坊や大分喋舌るようになり、急劇に智識欲の吸収に努めつつある如し。

昭和18年6月8日（火）

前日同様、降りみ降らずみ。切手類請求、葉書六千あり午前中受取り販る。防空演習雨の為中止。朝4時より実施の予なりし如し。水槽に水満水（7日夕刻、昭子さん手伝い）せしめたる甲斐もなく、利用の機なかりし。只サイレン吹鳴り試験あり。夕刻一時、雨歇む。道子より葉書。ミツヤ（三谷）より母危篤の電報に依り、秀夫より一緒に出発懇願せらし。夜6時より、東京行き急行にて出発する由。而して同時刻出発せしものなれば、本朝到着し居るものと想像さる。見舞金10円差支えなきやとあり。返事電報にて要求に付き「ミコシノトリトリハカラヘ」と発信置けり。

昭和18年6月9日（水）

昨夜臨時常会は婦人会にて、薬屋にて開催。7日は同じく一班の常会あり。此日は窒扶斯（チフス）の注射。ミワさん神様に行かる。積立貯金開始の由。夕方パン造らる。蚊帖吊る。

昭和18年6月10日（木）

連日降雨。勤務状況、調査表に基き写し作成。横田氏母堂と小母さん、勝恵ちゃん来たり。四日市より返事来たりしか否やを反問し、直接局長に面会の要否を訊す。乃ち電話で庶務主事に質したるに、逡信局に承認を求めつつあり回答あり。次第に出向せしむべしとのことなりと。其の旨を母堂に伝ひ、菓子三円程準備せしむ。諒諾して販る。此の頃、四日市局長は西馬城に転じ、四日市局長として代理通信手田口悟氏襲ふ。混雑して居るようにも

見ゆ。此日夜、会津若松発110、午後5時42分当着。午後7時47分、2時間を費やして「10ヒ14ジシス13ヒソウギムトウ」と電報し来る。今生の別れをしたものと思はる。

昭和18年6月11日（金）

栄町より2銭切手二千枚を要求あり。此の朝、現品払戻のことにして貸与す。然るに此日、森久より千余枚請求あり。2銭帖50冊二千枚を交付す。此日晴れ。麦刈奉仕団隊、早朝より繰出し、日の出町よりも指定員の奉仕あり。珍しき好晴を終日持続したるも、蒸暑く常態とは認められず。

昭和18年6月12日（土）

午前中晴れ。此日も奉仕隊多数繰り出したるも、午後より雨となり、夕方より猛威を逞しくす。雨に濡れて販りを急ぐ姿は気の毒なり。此朝お掃除、街路清洒。切手類請求後、印紙の要望あり。11時頃200円分を10円、5円及び5銭請求。11時半請取りに行く。既に二階に持来しありき。森久に態々持行く。パン作る。

昭和18年6月13日（日）

午前3時頃より雨頻り。本朝掃除出来ず。勤務状況調書作成、発送し得る状態に置く。午後より雨上がる。昨パン造りしも、余り甘味利かず。此の度は黒砂糖を配給受けて、坊や早速寄り舐む。ミワさん神様にて、積立貯金を団体にて成立を策し、其の儘受入れを委することになり、責任金額遂行上、貢献著し。

昭和18年6月14日（月）

快晴。午後より曇るも、大体晴天を持続す。張り板に母堂糊張りさる。坊や利口に色々話す。道子より三谷出しの葉書到着。12日あまり患者が永引くらしいに、秀夫二週間の休暇は絶対延伸出来ぬらしく、当惑らし。道子12日、七田谷地に至り骨休めする積もりなりしに、突然、危篤の電報により駒次と引返したるが、既に死去しあり。患者は出来処が違ふか、痛みなく看病も楽なりし。二日間看護したるを喜び居れり。12日納棺、13日葬儀。常吉のお駒さん来たり。東京より登一の三男某、来たりし由。14日墓詣り。道子は若松の墓へも詣る由。

昭和18年6月15日（火）

概ね晴れ。午後より曇りしも、前日同様降るに至らず。余、浴衣の上に事務服を纏ひ執務す。簡単な此の雑作（ぞうさ）でよろし。鉄道はボーナス月のボーナス日らし。国債や債券を持ち行かる。隣保班にも割当額配付す。

昭和18年6月16日（水）

晴れ。午前中理髪。午後1時に5分前に中津局に至る。定時開会場所は宿直室。色々の問題が出づ。余一番先切り出す。配達減便の問題、其の他多方面に渉る。午後5時を過ぎ閉会。切手類の請求、此の日にて制限一杯となる。販りに受取り来る。封緘葉書6百枚も数ヶ月振りて到着、請求せり。横田の息子も此日より電信に採用されたり。鯛12円一尾、局長へ持参せりと。電信主任は病気にて欠勤中。これも見舞として菓子3円程、持ち行ける由。勝恵ちゃんの母入院、無事昨男子分娩。ミワさん富士絹4円余分求め祝儀とせらる。つまり横田家は慶事重

なり、主人公大満悦の態とあり。麦刈奉仕此の日も続く。

昭和18年6月17日（木）

夜来降雨、好晴。黎明と共に稍曇り、夕刻より降雨。澄子よりミシン購入方申来る。

昭和18年6月18日（金）

雨の為、街路掃除見合わす。夕食時、貢氏より葉書来る。菊隊とあり、ビルマに駐屯し居ると思はる。午後雨歇む。8時過ぎ母堂神詣で、10時近く飯らる。ミワさん古城の安田氏へ国債持込まる。朝9時過ぎ出発、午後飯局。雨の為、外出せず居りしらし。

昭和18年6月19日（土）

午前中曇り、午後より晴れ。陽光漸く輝く。道子東山温泉に17日行き、18日東京行き一泊、20日帰福予定とあり。坊や胃腸を害し居るらし。砂糖のみ多食す。貢氏へ葉書書く。母堂もミワさんも書面にしたるらし。菊隊は文夫も同様、緬甸（ビルマ）派遣とあり。森田さん午後より帰省さる。煉炭、午後6時半より20ヶ求め運ぶ。

昭和18年6月20日（日）

概ね晴れ。気温低し。遂に余り汗出でざりし。遺骨到着の由にて国旗掲揚せり。午後坊や連れ、駅まで行き半時間程遊ぶ。木炭3俵配給。煉炭10ヶ運ぶ。味飯頂く。森田さん午後8時過ぎ到着。ミワさん等湯に行かれた跡に飯り、早く寝に就かる。余は矢張り10時を過ぐ。坊や容易に寝ず。

昭和18年6月21日（月）

午前曇り、後霽れ。愈々夏らしき赫熱（かくねつ）の状を呈す。東京敏子氏より葉書。道子一泊、19日午前10時急行にて出発す。出発に先立ち貢より便りありしと。此の時間に出発したるものとせば、博多着は乗換えなしに20日午前8時着の筈。

昭和18年6月22日（火）

福岡住吉上横田町885、末広三吾氏より、葉書にて再考を求め来たりしに対し返事。左記要領にて発送す。前略、私はあなたがどう云ふ立場で御照会になさるのか存じませんが、目標を箇人の利益に措かず、そうすることがお国の為めだと云ふ見地から出られることを、婆心（ばしん）ながら希ふ次第であります。合掌。

昭和18年6月23日（水）

道子より手紙。会津行きの前後の詳報、接手す。梅求めらる1斗5升。余運搬。広池洋服店の筋向い野菜屋、先日来、各方面に依頼したるも売物なし。偶々漸く発見したるもの。計6貫目80銭ずつ、計4円80銭。坊や袋に梅を入れ振り廻す。横田氏退院。枇杷五百匁程持参さる。

昭和18年6月24日（木）

昨夜三進商会主とか云ふ者、午前中書留依頼。5円紙幣に対し剩銭貰って居らんと、夜8時前10分電話あり。ミワさんかかり、森田さんかかる。計算合ふと云う。24日出局を承諾しつつ、8時半突然郵受渡口より闖入し来る。本問題を警察署宛て申告す。暫く請求を差扣（ひか）ひ居たる切手請求をやる。

昭和18年6月25日（金）

梅エキスを造る。液を火に乾燥し初めらる外に、一斗を塩漬けに造らる。米を注文、序でにうどん小麦粉等をも求め来らる。此の朝、余の味噌作る。税務署より分類所得税に対する収入額の決定通告あり。

以下は新聞記事より切り抜き。

逓信辞令（二十五日）

通信事務官（小倉局長）今井系治、命大阪西郵便局長

通信事務官（下関外郵課長）赤座彌六郎、

命小倉郵便局長

通信事務官（大阪中郵軍郵課長）前田周一、

命下関郵便局外国郵便課長

逓信局事務官（熊本監察課長）笠井駟郎（しろう）、

任逓信省事務官（六）命郵便局勤務

逓信局事務官（熊本郵便課長）江口正造、

命熊本逓信局監察課長

通信事務官（延岡局長）村上辰馬、

任逓信省事務官（七）命熊本逓信局業務部郵務課長

逓信局書記（熊本経理庶務課長）堺貞之、

任通信事務官 命延岡郵便局長

通信事務官（広島駅前局長）森本準亮、

命岡山郵便局長

通信事務官（久留米局長）田中秀穂、

命広島駅前郵便局長

平岡弘一郎、任通信事務官（六）命久留米局長

通信事務官（門司局長）關澤進、命七條郵便局長

通信事務官（川崎局長）丹冶金三郎、

命門司郵便局長
逡信局事務官（熊本經理課長）井上能邇、
命熊本逡信局經理部用品課長
逡信屬（総務）佐藤重雄、
任逡信局事務官（七）命熊本逡信局經理部經理課長
逡信屬（郵務）額賀巖、
任郵便検閲官（七）門司郵便局外国郵便課長
貯金局事務官（長崎支局長）田邊六三四、
命貯金局勤務
貯金局書記（福岡支局第一貯金課長）高原與一郎、
命長崎貯金支局長

昭和18年6月26日（土）

朝曇り、後遂に照り又曇る。坊やを連れ、元博多町島屋へ正麩（しょうふ）を注文に行く。ミワさんも行く。余はお伴の形。販りに家に寄らず駅に行く。余は早く販り、ミワさん坊や要求通り、一時間以上坊を遊ばす。夕食うどん頂く。切手類請求せず。手当到着したるも、昨年同期に比し10円不足。総体に於いて徑庭（けいてい）なし。

昭和18年6月27日（日）

曇り後雨。坊や1時頃寝入るたるも、1時間以内で起床。夕方6時半頃より寝る。かつ恵ちゃんに別れ、夕方より戸棚押入整理し、坊やの道具皆所在不明として諦めて居りし飯椀、箸、絵本等現はる。雨、夕方歇む。坊や7時前寝る。10時近く起き飯を要求。道子より葉書あり。上田谷地より貰ひ来れる豆類、小包にて送ると申越す。色々記載あるも省略。朝うどんの汁、腐敗せず。飯を入れ雑炊として頂く。

昭和18年6月28日（月）

快晴。朝ミワさん、坊を連れ中津局保険部行き。坊や胃腸障碍らし。元気なき嫌いあり。今夕常会。国債五百円は上本氏受取り小額券と交換。ミワさん大東亜第1回20円券を持参さる。森田さん30円券承諾さると。坊や7時頃目覚まし、小母ちゃんを叫び、森田さん抱かれて常会に行き、アラレを飽食、茶を嚙む夥し。10時飯り11時過ぎ寝る。ミワさん敷布団水洗いしたる為、乾燥不充分にて取入る。

昭和18年6月29日（火）

曇りがち。坊や頗る元気なし。午前10時半頃、清松医かかりやる。大泣きに泣きたる由。正午に近く寝かす。日出夫ちゃん毎日遊びに来て、擾（さわが）せしきこと甚だし。今朝から、医師から飯っても走り廻り、大分疲れたらし。昨道子よりの小包には小豆、大豆、鰯、鰹節等あり。鰯は10本程配給品、上田谷地よりのものらし。

昭和18年6月30日（水）

前日同様、気温高きも快晴ならず。手当到着、分配す。印紙三百円弱請求す。切手は40銭一枚もなきも、請求の向きもなき故、請求せず。道子より葉書、ブラザーがどうのと余の違約を責む。これも道子等を咎むべきに非ず。坊や神詣で。6月末と12月末とは大抜（おおはらい）あり。昼夜二回行ふ。昼は神様にて睡り神酒を頂き敗ねたり。夜は飯りに途中より睡りし由。午後11時近く飯らる。